

# 大学、短期大学、高等専門学校図書館等における ライトノベルの所蔵状況

佐藤翔・長野あやか・河合友紀奈・小林志帆

---

## 1. はじめに

### 1.1 研究の背景・目的

本稿では大学、短期大学、高等専門学校図書館等におけるライトノベルの所蔵状況について、CiNii Books を用いて調査した結果を述べる。

ライトノベルとは、若年層を主な読者対象に想定した、娯楽小説群のことである。その内容はファンタジー、SF、恋愛、ホラー、ミステリーなど多岐にわたる。「表紙のデザインがアニメ的」、「派手な演出や扇情的描写が多くマンガに近い」といった特徴を持つとされるが<sup>(1)</sup>、そのような特徴を持たないもののライトノベルに類される作品も存在し、必ずしも「これがライトノベルである」という合意が形成されているわけではない。ただし、「どこまでがライトノベルか」という範囲は定まっていない一方で、誰もがライトノベルとして認める範囲はある程度存在し、主として特定の文庫レーベルから出版されるものは（作品の内容等を問わずに）ライトノベルとして認識されている。若者の活字離れが叫ばれる一方で、これらのライトノベルは若年層の間で広く読まれていることが指摘されている<sup>(2)</sup>。

若年層の間で広く浸透しているライトノベルは、当然ながら学校図書館においても取り扱う対象となりうる。一方で、その娯楽性の高さや「マンガに近い」とも評される性質から、学校図書館でライトノベルを所蔵することに反対する意見もある<sup>(1)</sup>。他方、ライトノベルの中には魅力的な作品も多い等とし、学校図書館での所蔵・提供に肯定的な意見や<sup>(3)(4)</sup>、利用者である児童とコミュニケーションしながら蔵書を構築することの意義という観点から、一律に制限することに疑問を呈する意見もある<sup>(5)</sup>。また、近年ではライトノベルを所蔵すること自体は認めた上で、どのようなライトノベルが学校図書館で所蔵するにふさわしいのか、という点でオンライン上で意見が交わされることもある<sup>(6)</sup>。

このように学校図書館におけるライトノベルの所蔵に対して注目が集まる一方で、実際のところ現在、どのようなライトノベルが学校図書館に所蔵されているのか、またど

の程度ライトノベルの所蔵が進んでいるのかといった点については明らかにはなっていない。このようなデータは本来、学校図書館におけるライトノベルの所蔵について議論する上での基礎となりうるものであるが、学校図書館の所蔵資料を網羅的に調査する手段は現在存在せず、実際にデータを収集することは困難と考えられる。

そこで本研究では学校図書館と類似した性格を持ち、所蔵資料の網羅的な調査が可能な機関として、大学、短期大学、高等専門学校等の、NACSIS-CAT<sup>(7)</sup>加盟図書館に注目した。

大学図書館は教員・学生の研究・学習の支援を第一の目的とする施設ではあるが、一方で学生への読書推進のために一般書を揃える図書館も近年では多い。ライトノベルについても、一時専門のコーナーを設けていた鶴見大学の例があり、ある程度所蔵が進んでいるものと考えられる<sup>(8)</sup>。この状況は短期大学図書館でも共通である。また、高等専門学校の図書館については、高等学校の図書館と同様の性質を持つものでもあり、その所蔵状況の調査はより直接的に学校図書館でのライトノベルの所蔵を検討する上で参考となるものであろう。

多くの大学、短期大学、高等専門学校図書館はNACSIS-CATに加盟している。NACSIS-CAT加盟館の所蔵資料はCiNii Books<sup>(9)</sup>上で公開されており、WebAPIにより容易にデータを収集することができる。ここから、容易には調査し得ない学校図書館ではなく、大学、短期大学、高等専門学校図書館のライトノベルの所蔵状況を調査することには調査対象としての性格の面でも、調査にかかるコストの面でも妥当性が高いと言えよう。もちろん、この調査結果は直接の調査対象である大学、短期大学、高等専門学校図書館においてライトノベルがどのように選書されているのかを知る上でも大きな意義を持つと考えられる。

以上の理由から、本研究ではCiNii BooksのWebAPIにより取得したデータを用い、大学、短期大学、高等専門学校図書館におけるライトノベルの所蔵状況を調査する。結果から、これらの図書館においてライトノベルがどの程度所蔵されているのかを知るとともに、どのようなライトノベルが所蔵される傾向があるのかを明らかにすることを本研究の目的とする。

## 1.2 関連研究

大学、短期大学、高等専門学校図書館におけるライトノベルの所蔵状況を網羅的に調査した先行研究はこれまで存在しないが、一部の作品のみを対象とした所蔵状況調査としては、2008年に佐藤がブログ上で公開したNACSIS Webcatを用いたライトノベルの所蔵調査がある<sup>(10)(11)</sup>。これはなんらかの賞を獲得した作品等のみを対象とする調査であったが、ベストセラー作品であればいわゆるケータイ小説であっても所蔵している大

学図書館がある一方で<sup>(10)</sup>、ライトノベル作品については受賞作等であってもほとんど所蔵されていなかった、としている<sup>(11)</sup>。ただしこれは2008年に行われた調査で、その後は前述の鶴見大学のようにライトノベルを積極的に所蔵する図書館も現れていることから、現在では状況が異なっていることも考えられる。また、この調査は対象を限定して手作業で行われたものであり、網羅的な調査にはなっていない。

図書館におけるライトノベルの所蔵を調査した研究としては、2011年に大谷らが発表した、73の公共図書館を対象としたヤングアダルトコーナーの蔵書構成調査がある。この調査の中では発行された文庫レーベルからライトノベルを特定し、その所蔵状況を調べている。結果から、電撃文庫の所蔵率が高く MF 文庫 J の所蔵が少ないなど、資料選択において明らかなレーベル選好が存在すると推測されている。また、最も所蔵の多い電撃文庫については、73の調査対象図書館のうち64館が所蔵していること、分析対象となった166作品のうち147作品を所蔵していた図書館があったこと等がわかっており、公共図書館のヤングアダルトコーナーにおいては既にライトノベルは広く普及していることがうかがえる<sup>(12)</sup>。

ライトノベル以外の資料の大学、短期大学、高等専門学校での所蔵調査としては、CiNii Books を用い大学図書館におけるマンガの所蔵状況を調査した小山らの研究がある<sup>(13)</sup>。これは国立国会図書館サーチを用い抽出した、2011年までに出版されたマンガ121,552件を対象とした調査で、そのうち1館でも所蔵されていたものは10,190タイトル、8.4%であったとされている。日本の出版物全体の大学図書館における所蔵率は58.9%と言われており<sup>(14)</sup>、これに比べるとマンガは大学図書館で所蔵されにくいコンテンツであることを指摘している。

## 2. 調査方法の概要

本研究では調査対象とする作品の抽出については大谷ら<sup>(12)</sup>、所蔵状況の調査方法については小山ら<sup>(13)</sup>の研究を参考に、大学、短期大学、高等専門学校図書館におけるライトノベルの所蔵状況を明らかにしていく。以下、2.1節ではまず調査仮説について述べ、2.2節で詳細な調査方法について解説する。

### 2.1 調査仮説

1.1節で述べたとおり、本研究の目的は大学、短期大学、高等専門学校の図書館において、ライトノベルがどの程度所蔵されているのか、そしてどのようなライトノベルが所蔵される傾向にあるのかを明らかにすることである。

このうち「ライトノベルがどの程度所蔵されているのか」については、何をもってラ

イトノベルとするかの範囲さえ定まれば、その所蔵状況を調査することで明らかにできる。一方で、「どのようなライトノベルが所蔵される傾向にあるのか」については、所蔵の有無に影響する可能性のある要因を列挙し、それぞれの要因と所蔵状況の関係を分析する必要がある。このような要因については作品のタイトル、著者、イラストレーター、価格等さまざまなものがありうるが、その中でも本研究では以下の3つの要素が大学等の図書館におけるライトノベルの所蔵状況に影響を与えるのではないかと、という仮説を立てた。

#### **（１）発行元レーベルによって大学等の図書館における所蔵状況が異なる**

前述のとおり、公共図書館におけるライトノベルの所蔵状況については、発行元レーベルによって顕著な所蔵状況の違いが存在していた<sup>(12)</sup>。大学等の図書館においてもこの傾向は同様に存在するのではないかと考えられる。

#### **（２）ベストセラー作品は多くの大学図書館で所蔵される傾向がある**

ベストセラー作品の所蔵状況を調査した佐藤によれば、ビデオゲームの攻略本等を除けばほとんどの作品は一定数の大学等の図書館において所蔵されていた。その中には、範囲の定義によってはライトノベルに含まれる作品もあったとされている<sup>(10)</sup>。ここから、年間ベストセラーランキングに入っている等した作品は、大学等の図書館において多く所蔵されているのではないかとという仮説を立てた。

#### **（３）ファンの中で人気が高い作品は多くの大学図書館で所蔵される傾向がある**

書店等が発表するベストセラーランキングのほかに、ライトノベルについては毎年宝島社から発行される『このライトノベルがすごい！』に掲載されるランキング等、投票によって決まるランキングが存在する。このようなランキングは主体的に投票行動を起こすような、積極的なファンによって選ばれたものであり、一般のベストセラーランキングに比べ含まれる作品の範囲も広く、異なる傾向があるものと考えられる。一方で、複数のファンが投票するような人気作品であれば、大学図書館に所蔵されている可能性も高いと推測される。ただし、2008年の佐藤の先行調査では『このライトノベルがすごい！』に選ばれている作品であっても図書館で所蔵されている割合は低かったとも指摘されており、実際にどうなっているかは調査しなければ明らかにならない。

#### **（４）アニメ化された作品は多くの大学図書館で所蔵される傾向がある**

ライトノベル作品はマンガ等と同様、テレビアニメ化などのメディアミックスが頻繁に行われることでも知られている<sup>(15)</sup>。アニメ化された作品は書店等でも広報される機会

が増えることから、人々の目にとまりやすくなり、人気も集まることから結果として大学等の図書館に所蔵される割合が高くなるのではないかと考えられる。

以上の仮説を言い換えれば、(1)については作品そのものではなくその作品が属するレーベルによって大学等の図書館に所蔵されるか否かがある程度決定するのではないかと、(2)～(4)はそれぞれ調べる内容は異なるものの、なんらかの指標によってあらわされる、その作品の人気が高い場合ほど、大学等の図書館に所蔵される割合が高いのではないかと、ということになる。ただし、分析するのはあくまで(1)～(4)の要素と大学図書館における所蔵状況との間に関係があるか否か、であり、(1)～(4)の要因があるゆえに多くの大学図書館に所蔵された、という因果関係を示すことは本稿の目的とはしない。

## 2.2 調査対象

### (1) 対象レーベル

前述のように、何をもってライトノベルとするかの範囲は現在必ずしも明確に定まっているわけではないが、少なくとも特定の文庫レーベルから出版される作品についてはライトノベルとして認められる場合が多い。公共図書館におけるライトノベルの所蔵を調査した大谷らもこの定義を採用しており、具体的には電撃文庫、角川スニーカー文庫、MF文庫J、富士見ファンタジア文庫、ファミ通文庫の5レーベルをライトノベル所蔵調査の対象としていた<sup>(12)</sup>。本稿でも先行研究と同様、レーベルによってライトノベルの範囲を定めることとする。

一方で、ライトノベルとされる文庫レーベルは現在、数を増しており、必ずしも上記5レーベルのみを対象とすることがふさわしいとは限らない。そこで本研究では毎年発行される、ライトノベルを扱うムック『このライトノベルがすごい!』に掲載される「今、最も熱いライトノベルはこれだ!! BEST60発表!!」の過去3年分(2011～2013)を参照し、その中に多く含まれるレーベルを確認することで、調査対象を決定することとした<sup>(16)(17)(18)</sup>。調査結果を表1に示す(なお、年号にずれがあるのは例えば『このライトノベルがすごい!2011』には前年、2010年度のランキングが掲載されるためである)。

表から、大谷らの調査で扱われた5レーベルについては『このライトノベルがすごい!』のランキングに含まれる作品数上位5位と一致しており、これらを調査対象とすることは妥当であったと考えられる。しかし1位の電撃文庫が突出して高い以外は、2～7位までの間の差は数作品ずつ程度で、それほど多くはない。一方、7位(ガガガ文庫)と8位(GA文庫)の間には大きな差が開いている。

そこで本研究では、表1で7位までに位置づけられた7レーベルを調査対象とすることとした。あらためて調査対象とするレーベルを以下に列挙する。

- ・電撃文庫
- ・角川スニーカー文庫
- ・MF 文庫 J
- ・ガガガ文庫
- ・富士見ファンタジア文庫
- ・集英社スーパーダッシュ文庫
- ・ファミ通文庫

表1. 『このライトノベルがすごい!』BEST60入りレーベルの状況 (2010～2012年度)

	2010年度	2011年度	2012年度	合 計
電撃文庫	12	20	13	45
角川スニーカー文庫	6	7	5	18
富士見ファンタジア文庫	9	3	5	17
MF 文庫 J	7	6	4	17
ファミ通文庫	4	5	6	15
集英社スーパーダッシュ文庫	5	4	5	14
ガガガ文庫	3	6	3	12
GA 文庫	2	2	2	6
講談社 BOX	1	1	1	3
ハヤカワ文庫 JA		2	1	3
ウィングス文庫		1	1	2
HJ 文庫			2	2
講談社ラノベ文庫			2	2
講談社ノベルズ	1			1
角川ビーンズ文庫		1		1
角川文庫		1		1
C☆NOVELS FANTASIA		1		1
TO ブックス		1		1

## (2) 出版年

いわゆるライトノベルの中には、1つのシリーズが長期間にわたって発行され続けているものもあるが、本研究では過去5年間(2008～2012)に出版された作品に限定して所蔵状況を調査した。これは近年の大学、短期大学、高等専門学校図書館における所蔵

状況に限定して扱うためである。

### (3) シリーズ作品の扱い

ライトノベル作品には単刊で終わらず、シリーズ化されるものが多い。これらシリーズ化された作品の所蔵状況については、NACSIS-CAT のデータ登録（シリーズ作品はシリーズ単位で一書誌となる）と CiNii Books の WebAPI の仕様上、単刊レベルではなくシリーズ単位でしか所蔵状況を把握することができない。そこで本研究では、シリーズ化された作品についてはシリーズ単位で（NACSIS-CAT の書誌の単位で）扱うこととし、シリーズ中 1 巻でも所蔵されていた場合には「所蔵あり」と判断することとする。また、シリーズ中 1 巻でも調査対象期間（2008～2012年）中に発行された作品があった場合には、当該シリーズ全体を調査対象に含めることとする。

## 2.3 データの収集方法

### (1) 調査対象作品情報の取得

調査対象作品情報については国立国会図書館（NDL）サーチ<sup>19)</sup>の WebAPI を用いて取得した。NDL サーチではシリーズ名からデータを検索・該当するものを取得することが可能であり、2.2節で示したレーベル名と出版年をキーに検索し、該当するものの書誌情報（タイトル、著者名、出版者、出版年、ISBN 等）を取得した。NDL は国内の出版物を網羅的に所蔵しており、調査対象となるライトノベルの情報を網羅的に取得できるものと考えられる。

### (2) 所蔵状況データの取得

NACSIS-CAT 加盟館における所蔵館数のデータは、CiNii Books の WebAPI を用いて取得した。NDL サーチから取得した書誌情報のうち、ISBN をキーに検索を行い、所蔵館数の情報と、所蔵があった場合には同一作品であることを確認するために書誌情報も取得した。

なお、(1)の段階ではシリーズの統合は行わず、(2)のデータ取得が終わった後に、人目により同一シリーズを判断し、データをまとめ直した。これは CiNii Books では同一作品の書誌分かれ（シリーズ単位での書誌のほかに、単行単位での書誌が誤って作成されている場合）が存在するためである。書誌分かれが起こっていた場合には、所蔵館が重複している（ある図書館が、全体としてはシリーズ単位で所蔵登録をしているものの、そのうち一部のみ単行単位の書誌を作成してしまうなど）ことがあるため、より所蔵館数の多いデータを残すこととした。

以上、(1)、(2)のデータの取得については2013年10月17日～24日にかけて行った。

### (3) 作品の人気に関わる情報の取得

本研究では前述のとおり、作品の人気に関わる情報として、ベストセラーランキング等への登場状況、ファンの人気投票等での登場状況、アニメ化の状況を扱うこととした。それぞれの取得方法は以下のとおりである。

#### ・ベストセラーランキング情報

ライトノベルのベストセラーランキングとしては ORICON STYLE が2009年から Web 上で発表している「年間“本”ランキング ライトノベル (文庫)」がある。本研究では調査実施時点で公開されていた2009～2012年分の4年分ランキング情報<sup>(20) (21) (22) (23)</sup>を確認し、調査対象作品について、過去4年間で最も順位の高かった年と、その順位を記録した。

なお、オリコンランキングは年によって列挙する冊数が変わり、2009、2010年は上位10位、2011年は上位50位、2012年は上位20位までが挙げられる形式であった。このような形式の差異はあるものの、他に類するデータが存在しないため、本研究ではオリコンランキングをライトノベルのベストセラーランキング集計に用いることとした。

#### ・ファンの人気投票等での登場状況

ファンの人気投票での順位については、前述の『このライトノベルがすごい!』に掲載される「今、最も熱いライトノベルはこれだ!! BEST60発表!!」がある。調査対象レーベル選定時には過去3年分の登場レーベルを確認したが、人気に関わる情報の取得時には調査対象作品の出版年の範囲に揃え、過去5年に発行された『このライトノベルがすごい! 2009』から『このライトノベルがすごい! 2013』までに掲載されたランキングを調査した<sup>(16) (17) (18) (24) (25)</sup>。なお、各号に掲載されるのは前年に出版された作品のランキングであるため、調査対象となるランキングは2008～2012となり、調査対象作品の出版年に対応している。

#### ・アニメ化の状況

調査対象作品のアニメ化状況については、Gigazine (ギガジン)<sup>(26)</sup>、アキバ総研<sup>(27)</sup>、あにこれβ<sup>(28)</sup>の3つの Web サイトで番組改編期ごとに公開される新作 TV アニメ作品情報を確認し、ライトノベル作品が原作となっているものの情報を特定、取得した。なお、ベストセラーランキングやファンによる人気投票と異なり、アニメ化については出版後しばらく経ってからアニメ化される場合が多いため、2008年から2013年までの6年間の状況を調査した。



### 3. 調査結果

#### 3.1 所蔵状況等の概要

##### (1) 分析対象タイトル数と所蔵状況

第2章で述べた方法に基づき対象データを取得した結果、対象となる作品（書誌数）は1,152タイトルであった。

表2に分析対象タイトルの所蔵状況を示す。1,152タイトルの所蔵図書館数の平均値は0.97、中央値は0、最大値は74であった。もっとも所蔵数が多かったのは電撃文庫から刊行されているシリーズ作品『キノの旅』<sup>(29)</sup>である。同作品については2008年の佐藤による調査で15館でのみ所蔵があったとされていた。それでも当時の段階では調査対象の中で最も所蔵数が多いと指摘されていたが、現在では5倍近い数の図書館に所蔵されている。ここから大学、短期大学、高等専門学校図書館におけるライトノベルの所蔵は佐藤による先行調査時点よりも進んでいるものと考えられるが、一方で所蔵図書館数の中央値が0であることから、多くの作品は一つの図書館にも所蔵がないこともわかる。

表2. 分析対象タイトルの所蔵状況 (N=1,152)

平均値	0.97
中央値	0
最大値	74
最小値	0
標準偏差	4.08

##### (2) データの分布

所蔵図書館数の状況についてより詳細を見るため、1館以上で所蔵があるタイトルの状況を示したものが表3、所蔵状況のローレンツ曲線を示したものが図1、1館以上所蔵のあるタイトルに限定して所蔵状況のローレンツ曲線を示したものが図2である。

表3から、調査対象としたライトノベル作品の中で1館以上で所蔵されているものは17.8%、1館の所蔵もないものは82.2%である。大場らの調査によれば日本で出版される図書全体の、大学図書館における所蔵率は58.9%である<sup>(14)</sup>。文学作品に限定しても58.5%、文庫に限定しても45.5%が1館以上で所蔵されていたとされており、手法は異なるものの本研究で示したライトノベルの所蔵率はこれに比べて著しく低い。一方で、大場らの研究で示されたマンガの所蔵率(5.4%)や小山らが示したマンガの所蔵率(8.4%)<sup>(13)</sup>に比べると、本研究におけるライトノベルの所蔵率は高い。ここから、日本の

大学、短期大学、高等専門学校において、ライトノベルは他の資料に比べると所蔵されにくいものの、マンガに比べると所蔵されやすい、という位置づけにあることがわかる。

表3. 1館以上で所蔵があるタイトルの状況 (N=1,152)

	度数	割合
所蔵あり	205	17.8%
所蔵なし	947	82.2%

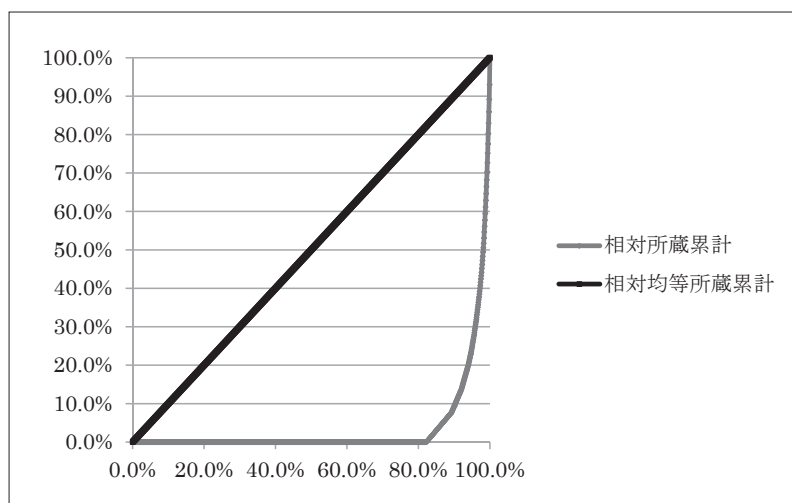


図1. 所蔵状況のローレンツ曲線 (ジニ係数0.929)

また、表3および図1から、日本の大学図書館におけるライトノベルの所蔵状況には著しい偏りがあることもわかる。多くの作品は1館も所蔵がない一方で、前述の『キノの旅』をはじめ多くの図書館で所蔵されるタイトルも存在し、データの偏りを示すジニ係数は0.929 (有効桁数3桁) と非常に高くなっている。ただしこの偏りについては、比較すべき対象がないことからライトノベルに特徴的なものであるか否かはわからない。また、図2より1館以上で所蔵のあるタイトルの中ではデータの偏りは (当然ながら) 小さくなり、ジニ係数は0.604となる。

なお、このようにデータの偏りが大きく、正規分布していないことから、以下の分析ではデータの正規分布を前提とする検定 (t検定等) は行わず、非正規データにも用いることができる検定のみ行うこととする。

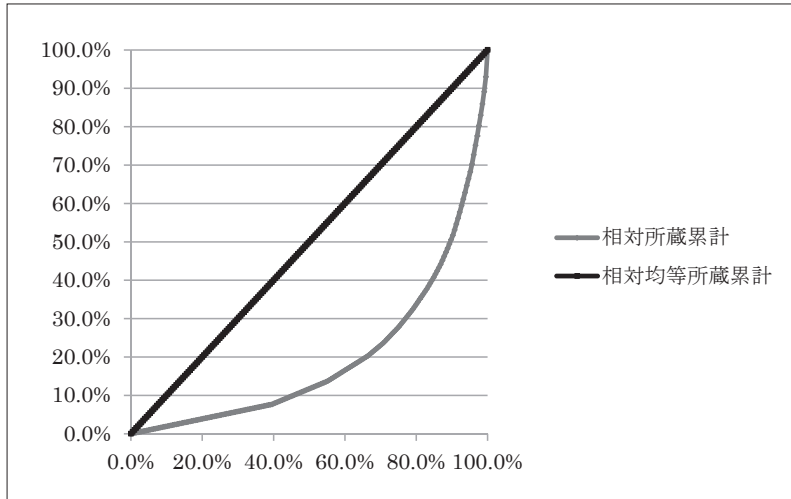


図2. 所蔵状況のローレンツ曲線（所蔵のあるタイトルのみ、ジニ係数0.604）

### 3.2 レーベルごとの分析

表4は分析対象タイトル中に含まれる各レーベル作品の度数と割合を示したものである。電撃文庫がもっとも発行作品数が多く、他のレーベルに2倍以上の差をつけている。逆に分析対象期間中、もっとも発行作品数が少ないのは角川スニーカー文庫である。その他の各レーベルについては、MF文庫Jがやや発行作品数が多いものの、大きな差は存在しない。

表4. 分析対象中の各レーベルの状況（ $N=1,152$ ）

	度数	割合
電撃文庫	320	27.8%
角川スニーカー文庫	103	8.9%
MF文庫J	171	14.8%
ガガガ文庫	137	11.9%
富士見ファンタジア文庫	146	12.7%
集英社スーパーダッシュ文庫	125	10.9%
ファミ通文庫	150	13.0%

これらのレーベルごとに、大学、短期大学、高等専門学校図書館での所蔵状況を示したものが表5である。所蔵図書館数の平均値、最大値とも電撃文庫が最も高く、他のレーベルに最低でも2倍以上、最大で約10倍の差をつけている。電撃文庫は発行点数自体も多いため、国内の大学、短期大学、高等専門学校図書館で所蔵されているライトノベル

の多くは電撃文庫であると指摘できる。その他のレーベルは軒並み所蔵数の平均値が1を下回っており、特に集英社スーパーダッシュ文庫は0.2と突出して低くなっている。集英社スーパーダッシュ文庫は所蔵図書館数の最大値も4と唯一、10以上の図書館で所蔵されている作品が存在しないレーベルであり、大学等の図書館で所蔵されにくいレーベルであることがうかがえる。なお、非正規分布データにも用いることができるKruskal-Wallisの検定を行ったところ、有意水準1%でレーベルによる所蔵図書館数の分布には統計的に有意な差が存在していた。ただし、所蔵図書館数の中央値については全レーベルで0であり、大半の作品が調査対象図書館で所蔵されていない傾向はレーベルを問わず共通である。

表5. レーベル別の所蔵状況 (N=1,152)

	電撃文庫	角川スニーカー文庫	MF文庫J	ガガガ文庫
度数	320	103	171	137
平均値	2.06	0.78	0.43	0.55
中央値	0	0	0	0
最大値	74	11	16	26
最小値	0	0	0	0
標準偏差	6.72	1.89	1.72	2.86

	富士見ファンタジア文庫	集英社スーパーダッシュ文庫	ファミ通文庫
度数	146	125	150
平均値	0.62	0.20	0.73
中央値	0	0	0
最大値	20	4	26
最小値	0	0	0
標準偏差	2.23	0.72	3.09

そこでレーベルごとの、1館以上で所蔵があるタイトルの状況を示したものが表6である。表から、1館以上で所蔵されているタイトルの割合が最も高いのは電撃文庫(27.8%)で、所蔵図書館数の平均値と同様の傾向を示しているが、一方で角川スニーカー文庫も24.3%のタイトルが1館以上で所蔵されており、電撃文庫に匹敵する状況となっている。表5より角川スニーカー文庫の平均所蔵図書館数には電撃文庫との間で大きな差がある

ことから、角川スニーカー文庫については、(電撃文庫以外の)他のレーベルよりも図書館で所蔵されるタイトルの割合が多いものの、多くの図書館が所蔵するというタイトルはあまりない、ということが指摘できよう。なお、カイ二乗検定より、このレーベルごとの図書館所蔵の有無の割合は有意水準1%で統計的に有意であった。

表6. レーベル別の所蔵状況 (クロス表) ( $N=1,152$ )

	図書館所蔵の有無	
	所蔵なし	所蔵あり
電撃文庫	231	89
	72.2%	27.8%
角川スニーカー文庫	78	25
	75.7%	24.3%
MF 文庫 J	146	25
	85.4%	14.6%
ガガガ文庫	123	14
	89.8%	10.2%
富士見ファンタジア文庫	123	23
	84.2%	15.8%
集英社スーパーダッシュ文庫	114	11
	91.2%	8.8%
ファミ通文庫	132	18
	88.0%	12.0%

$\chi^2$  二乗検定…自由度6、 $\chi^2=42.232$ 、 $p<0.01$ 、有意水準1%で有意

以上の結果から、大学、短期大学、高等専門学校におけるライトノベルの所蔵状況にはレーベルによる差が大きく、電撃文庫と角川スニーカー文庫は他のレーベルに比べ図書館で所蔵されるタイトルの割合が大きいこと、特に電撃文庫はより多くの図書館で所蔵される傾向があることがわかった。

### 3.3 オリコンへのランクインとの案計

表7は2009~2012の過去4年間に、オリコンのライトノベルランキングにランクインしているタイトルの状況を示したものである。表から、過去にオリコンランキングにランクインしたタイトルはごく少数であり、調査対象全体の1.9%にとどまっている。これは、オリコンランキングが最大でも上位50位まで、最小で上位10位までを示すもので

あり、含まれる作品数が少なくなりがちであることに加えて、オリコンランキングは集計対象が単行単位であり、シリーズ作品も1冊ずつ扱うのに対して、本研究の調査対象はシリーズをまとめて集計していることの影響による（例えば2012年のオリコンランキング上位20位中、11作品は同一シリーズであり、本研究ではすべてまとめて1件として扱う）。

表7. 過去4年間にオリコンにランクインしているタイトルの状況 (N=1,152)

	度数	割合
ランクイン	22	1.9%
ランク圏外	1,130	98.1%

表8はこれらオリコンランキングにランクインした作品の、レーベルごとの状況を示したものである。電撃文庫の作品のランクイン作品数も多くなっているものの、これは発行点数自体が多いためであり、オリコンランキングにランクインする作品の割合には

表8. レーベル別のオリコンランクイン状況 (クロス表) (N=1,152)

	オリコンランク	
	圏外	ランクイン
電撃文庫	311	9
	97.2%	2.8%
角川スニーカー文庫	101	2
	98.1%	1.9%
MF文庫J	166	5
	97.1%	2.9%
ガガガ文庫	137	0
	100.0%	0.0%
富士見ファンタジア文庫	142	4
	97.3%	2.7%
集英社スーパーダッシュ文庫	124	1
	99.2%	0.8%
ファミ通文庫	149	1
	99.3%	0.7%

$\chi^2$  二乗検定…自由度6、 $\chi^2=7.595$ 、 $p=0.269$ 、有意水準5%で非有意

レーベルによる統計的に有意な差は見られない。ただし、大きな差がないのは電撃文庫とMF文庫J、富士見ファンタジア文庫の間についてのみで、ファミ通文庫、集英社スーパーダッシュ文庫はベストセラーランキング入りした作品がごく少なく、ガガガ文庫に至っては1作品もない点には留意する必要がある。

これらオリコンランキングにランクインした作品は、ランクインしなかった作品よりも多くの図書館で所蔵される傾向がある。表9はオリコンランクインの有無と、調査対象図書館における所蔵数の関係を示したものである。所蔵図書館数の平均値、中央値ともランクイン作品とランク圏外作品で大きな差があり、ランクイン作品の方が多くの図書館で所蔵される傾向がある。非正規分布データにも用いることができる Mann-Whitney のU検定を行ったところ、有意水準1%でこの差は統計的に有意であった。

表9. オリコンランクインと所蔵状況の関係 (N=1,152)

	ランクイン	ランク圏外
度数	22	1,130
平均値	16.95	0.65
中央値	11.5	0
最大値	74	41
最小値	0	0
標準偏差	16.30	2.63

また、表10はオリコンランクインと、調査対象図書館における所蔵の有無の関係を見たものであるが、ここでもオリコンランクイン作品とランク圏外作品で顕著な差が存在する。オリコンランクイン作品は9割以上が、いずれかの図書館で所蔵されている一方、ランク圏外作品では8割以上が1館も所蔵がない。

表10. オリコンランクインと所蔵状況の関係 (クロス表) (N=1,152)

	図書館所蔵の有無	
	所蔵なし	所蔵あり
オリコンランク圏外	945	185
	83.6%	16.4%
ランクイン	2	20
	9.1%	90.9%

$\chi^2$  二乗検定…自由度1、 $\chi^2=81.959$ 、 $p<0.01$ 、有意水準1%で有意

以上の結果から、オリコンランクインするようなベストセラー作品は、それ以外の作品に比べ顕著に大学、短期大学、高等専門学校図書館で所蔵される傾向があると言える。

### 3.4 『このライトノベルがすごい!』へのランクインとの関係

表11は、過去5年間に『このライトノベルがすごい!』の「今、最も熱いライトノベルはこれだ!! BEST60発表!!」に一度でもランクインしていた作品の度数と割合を示したものである。オリコンランクイン作品に比べれば『このライトノベルがすごい!』ランクイン作品の数は多く、122タイトル（全体の10.6%）が過去5年間に1回以上、ランクインしている。

表11. 過去5年間に『このライトノベルがすごい!』BEST60にランクインしているタイトルの状況 (N=1,152)

	度数	割合
ランクイン	122	10.6%
ランク圏外	1,030	89.4%

表12はこれら『このライトノベルがすごい!』BEST60ランクイン作品の、レーベルごとの状況を示したものである。『このライトノベルがすごい!』ランクイン作品については、ここまでの傾向と異なり最もランクイン作品の割合が多いのは電撃文庫ではなく、角川スニーカー文庫であった（15.5%）。次いで電撃文庫（14.7%）、富士見ファンタジア文庫（12.3%）と続き、他のレーベルはこれら3レーベルに比べ顕著に割合が低い。カイ二乗検定より、この結果は有意水準5%で有意であった。

表13はこれら『このライトノベルがすごい!』BEST60ランクイン作品と、それ以外の作品の所蔵図書館数の状況を示したものである。ランクイン作品とランク圏外作品では顕著な傾向の違いがあり、ランクイン作品は所蔵図書館数の平均値、中央値ともランク圏外作品よりも顕著に高い。Mann-WhitneyのU検定から、有意水準1%でこの差は統計的に有意であった。

さらに表14はランクインの有無と1館以上図書館で所蔵されているタイトルの割合の関係を示したものであるが、ここでもランクイン作品とランク圏外作品では顕著に傾向が異なり、ランクイン作品は6割以上がいずれか1つ以上の図書館で所蔵されている一方、ランク圏外作品は87.6%と大半が1つの図書館にも所蔵がない作品であった。カイ二乗検定より、この差は有意水準1%で統計的に有意である。

さらに、『このライトノベルがすごい!』へのランクイン状況については、過去5年間の最高順位と、過去5年間に合計で何度BEST60ランク入りしたかと、所蔵図書館



数の相関関係についても分析した。結果を示したものが表15である。前述のとおり所蔵図書館数データは正規分布していないため、表15ではデータの正規性を前提とするピアソンの積率相関ではなく、正規性を前提としないスピアマンの順位相関を見ている。また、分析対象は過去に1度以上ランクインした作品に限定している。

表12. レーベル別の『このライトノベルがすごい!』ランクイン状況 (クロス表)

(N=1, 152)

	『このライトノベルがすごい!』ランクイン	
	圏 外	ランクイン
電撃文庫	273	47
	85.3%	14.7%
角川スニーカー文庫	87	16
	84.5%	15.5%
MF 文庫 J	158	13
	92.4%	7.6%
ガガガ文庫	129	8
	94.2%	5.8%
富士見ファンタジア文庫	128	18
	87.7%	12.3%
集英社スーパーダッシュ文庫	116	9
	92.8%	7.2%
ファミ通文庫	139	11
	92.7%	7.3%

$\chi^2$  二乗検定…自由度6、 $\chi^2=16.874$ 、 $p=0.010$ 、有意水準5%で有意

表13. 『このライトノベルがすごい!』ランクインと所蔵状況の関係 (N=1, 152)

	ランクイン	ランク圏外
度 数	122	1,030
平 均 値	6.26	0.34
中 央 値	3	0
最 大 値	74	26
最 小 値	0	0
標 準 偏 差	10.28	1.56

表14. 『このライトノベルがすごい!』 ランクインと所蔵状況の関係 (クロス表)

( $N=1,152$ )

	図書館所蔵の有無	
	所蔵なし	所蔵あり
『このライトノベルがすごい!』 ランク圏外	902	128
	87.6%	12.4%
ランクイン	45	77
	36.9%	63.1%

$\chi^2$  二乗検定…自由度 1、 $\chi^2=191.579$ 、 $p<0.01$ 、有意水準 1% で有意

表15. 『このライトノベルがすごい!』 過去最高順位・ランクイン回数と所蔵状況の関係 (クロス表) ( $N=122$ )

		所蔵図書館数	最高順位	出現回数
所蔵図書館数	相関係数( $\rho$ )	1.00	-.0394**	0.543**
	有意確立( $p$ )	—	0.00	0.00
最高順位	相関係数	—	1.00	-.626**
	有意確立	—	—	0.00
出現回数	相関係数	—	—	1.00
	有意確立	—	—	—

\*\*…  $p<0.01$ 、有意水準 1% で有意

表から、過去最高順位と所蔵図書館数の間には弱い負の相関、過去の出現回数と所蔵図書館数の間には中程度の正の相関がある。順位は値が小さいほど高い（順位としては1位が最高であるが、数としては1が最も小さい）ため、最高順位と所蔵図書館数の間に負の相関があるということは、過去最高順位の高い作品の方が多くの図書館に所蔵される傾向があることを示している。また、ランクインする回数が多い作品ほど、所蔵図書館数が多い傾向もあった。これらの関係は全て有意水準 1% で統計的に有意である。

以上の結果から、『このライトノベルがすごい!』BEST60ランクインの有無と大学、短期大学、高等専門学校図書館での所蔵状況の間には顕著な関係があり、ランクイン作品の方が多くの図書館で所蔵される傾向がある。また、ランクが高い作品、頻繁にランクインする作品の方が所蔵図書館数が多くなる傾向も見受けられた。

### 3.5 アニメ化との関係

表16は2008～2013年の過去6年間にアニメ化されていたタイトルの状況を示したもの

である。アニメ化された作品はオリコンランクイン作品に比べれば多いが、『このライ  
トノベルがすごい!』BEST60入り作品に比べると少ない、という状況になっている。

表16. 過去6年間にアニメ化されたタイトルの状況 (N=1,152)

	度 数	割 合
ア ニ メ 化	72	6.3%
非アニメ化	1,080	93.8%

表17はこれらアニメ化された作品について、レーベルごとの状況を見たものである。  
ここまでで見てきた全ての傾向と異なり、データ収集期間中のレーベル別のアニメ化状  
況については、富士見ファンタジア文庫が最もアニメ化作品の割合が多く(8.2%)、次  
いでMF文庫J(7.6%)、集英社スーパーダッシュ文庫(7.2%)と続く。電撃文庫は  
第4位(6.9%)であり、必ずしもアニメ化される割合が高いわけではない。また、そ  
もそもアニメ化される割合のレーベルによる差自体小さく、統計的に有意な差は存在し  
ない。

表17. レーベル別のアニメ化状況(クロス表)(N=1,152)

	アニメ化状況	
	非アニメ化	アニメ化
電撃文庫	298	22
	93.1%	6.9%
角川スニーカー文庫	96	7
	93.2%	6.8%
MF文庫J	158	13
	92.4%	7.6%
ガガガ文庫	132	5
	96.4%	3.6%
富士見ファンタジア文庫	134	12
	91.8%	8.2%
集英社スーパーダッシュ文庫	116	9
	92.8%	7.2%
ファミ通文庫	146	4
	97.3%	2.7%

$\chi^2$  二乗検定…自由度6、 $\chi^2=6.826$ 、 $p=0.337$ 、有意水準5%で非有意

表18はこれらアニメ化の有無と、所蔵図書館数の関係を見たものである。アニメ化作品は所蔵図書館数の平均値、中央値とも非アニメ化作品よりも顕著に大きく、Mann-Whitney のU検定よりこの差は有意水準1%で統計的に有意であった。

表18. アニメ化状況と所蔵状況の関係 (N=1, 152)

	アニメ化	非アニメ化
度数	72	1,080
平均値	6.90	0.57
中央値	3	0
最大値	41	74
最小値	0	0
標準偏差	9.44	3.06

また、表19はアニメ化の有無と1館以上で所蔵されているタイトルの有無の関係を見たものであるが、こちらもアニメ化された作品は72.2%が1館以上で所蔵がある一方、非アニメ化作品は85.8%が1つの図書館にも所蔵がなく、顕著な傾向の違いが見られた。カイ二乗検定より、この差は有意水準1%で統計的に有意である。

表19. アニメ化状況と所蔵状況の関係 (クロス表) (N=1, 152)

	図書館所蔵の有無	
	所蔵なし	所蔵あり
非アニメ化	927	153
	85.8%	14.2%
アニメ化	20	52
	27.8%	72.2%

$\chi^2$  二乗検定…自由度1、 $\chi^2=155.522$ 、 $p<0.01$ 、有意水準1%で有意

以上の結果から、アニメ化された作品とされていない作品では大学、短期大学、高等専門学校図書館での所蔵状況が顕著に異なり、アニメ化された作品の方が多くの図書館で所蔵される傾向があることがわかった。

## 4. 考察

### 4.1 大学、短期大学、高等専門学校図書館におけるライトノベル所蔵状況

本研究の目的は大学、短期大学、高等専門学校図書館におけるライトノベルの所蔵状況を調査し、結果から、これらの図書館においてライトノベルがどの程度所蔵されているかを知るとともに、どのようなライトノベルが所蔵される傾向があるのかを明らかにすることであった。

このうちライトノベルが大学等の図書館にどの程度所蔵されているかについては、分析対象期間に出版された作品のうち17.8%が1つ以上の図書館で所蔵されている、という結果になった。これは日本の出版物一般の大学図書館における所蔵率に比べると顕著に低い、マンガの所蔵率に比べれば高い、という値である。2008年に行われた先行調査<sup>(11)</sup>では日本の大学図書館ではライトノベルはほとんど所蔵されていないという結果が示されていたが、未だに一般的な資料に比べれば所蔵される割合は低いものの、5年間でライトノベルを受け入れる大学図書館等が増加してきていることがわかった。

ただし、ライトノベルの所蔵状況には偏りが大きく、多くの図書館で所蔵されるタイトルとどこにも所蔵されないタイトルに別れる傾向があった。以下、それぞれの要因について、調査実施以前の仮説に基づいて検証する。

### 4.2 調査仮説の検証

#### (1) 発行元レーベルと図書館所蔵状況の関係

公共図書館における調査において、発行元レーベルと図書館の所蔵状況の間には顕著な関係があることが指摘されていたが<sup>(12)</sup>、本研究でもこの傾向は同様であった。調査対象とする7つのレーベルの中で、電撃文庫と角川スニーカー文庫は他のレーベルよりも図書館に所蔵される割合が高く、特に電撃文庫は多くの図書館で所蔵される作品も多いことが示された。この結果から、「発行元レーベルによって大学等の図書館における所蔵状況が異なる」という調査仮説は採択されたと言えよう。

#### (2) 売上、読者人気、アニメ化状況と図書館所蔵状況の関係

本研究では作品の人気と所蔵状況の関係に関する仮説として、「ベストセラー作品は多くの大学図書館で所蔵される傾向がある」、「ファンの中で人気が高い作品は多くの大学図書館で所蔵される傾向がある」、「アニメ化された作品は多くの大学図書館で所蔵される傾向がある」という3つの仮説を立てた。分析の結果、これらの傾向は全て実際に認められ、ベストセラーランクに登場する作品、『このライトノベルがすごい!』で読者等の投票で選ばれるランクに入る作品、アニメ化された作品は、いずれも図書館で所

蔵される割合が高く、多くの図書館で所蔵されるタイトルも多い傾向があった。ここから、これらの仮説は全て採択されたと言えよう。

#### 4.3 結論と今後の課題

以上の考察をまとめると、大学、短期大学、高等専門学校の図書館では以前に比べライトノベルが所蔵されるようになってきており、特に売上部数の多い作品、『このライトノベルがすごい!』BEST60に選ばれるファンの人気が高い作品、アニメ化された作品、そして電撃文庫から出版された作品が多く所蔵される傾向にある、と言える。

この中で特に興味深いのは、「電撃文庫から出版された」ことが影響を持つことである。3.3～3.5節で触れたとおり、オリコンランキングにランクインしている作品の割合や『このライトノベルがすごい!』BEST60にランクインしている作品の割合については、電撃文庫に匹敵するレーベルもあり、アニメ化の有無についてはむしろ電撃文庫はアニメ化作品の割合が低いレーベルである。それにも関わらず電撃文庫と他レーベルで所蔵図書館数の傾向に差が現れたということは、レーベルによる影響は他の3要因の影響とは独立に存在していることを示している。つまり、電撃文庫で出版される作品に人気作が多いために多くの図書館で所蔵されているわけではなく、作品の人気とは別に電撃文庫で出版された作品は多くの図書館で所蔵されるという、図書館所蔵におけるレーベル選好の存在が示唆される。あるいは、売上部数が多い／『このライトノベルがすごい!』にランクインする／アニメ化されるような人気作品以外のライトノベルは、電撃文庫から出ているもの以外は図書館に所蔵されることは期待できない、とも言い換えられる。

大学、短期大学、高等専門学校図書館におけるライトノベルの所蔵状況を網羅的に調査したのは本研究が初である。また、図書館におけるライトノベル所蔵にレーベル選考が存在することは、公共図書館の例は指摘されていたが、それが人気作品であるか否かは別に存在することを示したのも本研究が初めてである。この結果から学校図書館等で所蔵すべきライトノベルについて直接的な示唆を引き出すことができるわけではないが、類似する館種である大学、短期大学、高等専門学校においては、人気作ないし電撃文庫を所蔵する図書館が多い、ということは選書の参考にはなるかもしれない。

本研究の課題としては、作品の内容や表紙デザインといった要素と所蔵図書館数等の関係を分析できていない点が挙げられる。図書館におけるライトノベルの所蔵の是非を問う議論においては、第1章で述べたとおり扇情的描写が多いとされる内容を問題視したり、アニメ的とされる表紙デザインを問題視する意見が見られる。このような要素が、図書館においてあるライトノベルを「所蔵しない」意思決定に反映されている可能性は高く、それがレーベル選考につながっていることも考えられる。一方で、これらの要素はCiNii Books等で機械的にデータを得ることは難しく、現物に基づいて内容や表紙

デザインを確認しなければ調査できない。これについては本稿では扱わず、今後の課題として位置づけたい。

#### 参考文献

- (1) “ライトノベル、学校で必要か”。朝日新聞。2008-10-5。朝刊，8面。
- (2) 千野拓政。東アジアにおけるサブカルチャー、文学の変貌と若者の心：アニメ・マンガ・ライトノベル、コスプレ、そして村上春樹。早稲田大学総合人文科学研究センター研究誌。2013，vol.1，p.147-163。
- (3) “ライトノベル、面白いですよ”。朝日新聞。2008-10-12。朝刊，8面。
- (4) “読書の入り口、ライトノベル”。朝日新聞。2008-10-31。朝刊，17面。
- (5) 井谷泰彦。学校図書館の選書問題に関する一考察：高校図書館を中心に。早稲田大学大学院教養学研究科紀要：別冊。2012，vol.20，no.1，p.91-101。https://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/handle/2065/37456/，(2014-02-01 accessed)。
- (6) “外商の人から「最近中学校でラノベの導入について聞かれるんだけど、どのタイトルがいいのか教えてくれ」って言われたんだが何がいいかしらね”。Togetter。2012-12-11。http://togetter.com/li/421250，(2014-02-01 accessed)。
- (7) 国立情報学研究所。国立情報学研究 目録所在情報サービス。http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/，(2014-02-01 accessed)。
- (8) “ライトノベルコーナーを新設”。鶴見大学図書館ブログ。2010-01-08。http://blog.tsurumi-u.ac.jp/library/2010/01/post-fd9e.html，(2014-02-01 accessed)。
- (9) 国立情報学研究所。CiNii Books。http://ci.nii.ac.jp/books/，(2014-02-01 accessed)。
- (10) 佐藤翔 (min2-fly)。“ベストセラーは普通に大学図書館に所蔵されている”。かたつむりは電子図書館の夢をみるか。2008-02-17。http://d.hatena.ne.jp/min2-fly/20080217/1203274993，(2014-02-01 accessed)。
- (11) 佐藤翔 (min2-fly)。“大学図書館所蔵率調査続編：ライトノベルはどこにもない、ミステリーはどこにでもある”。かたつむりは電子図書館の夢をみるか。2008-02-23。http://d.hatena.ne.jp/min2-fly/20080223/1203791219，(2014-02-01 accessed)。
- (12) 大谷康晴，安形輝，安形麻理，杉江典子，橋詰秋子。“公共図書館のヤングアダルトコーナーの蔵書構成：2007年出版物を対象とした調査”。2011年日本図書館情報学会春季研究集会。東京，2011-05-14，日本図書館情報学会，2011，p.39-42。
- (13) 小山信弥，吉田倫子，吉井潤，上田晶子，安形輝。“日本の大学図書館におけるマンガの所蔵状況”。三田図書館・情報学会2012年度研究大会。東京，2012-10-06，三田図書館・情報学会，2012，p.33-36。http://www.msliis.jp/am2012yoko/09\_koyama.pdf，(2014-02-01 accessed)。
- (14) 大場博幸，安形輝，池内淳，大谷康晴。図書館はどのような本を所蔵しているか：2006年上半期総刊行書籍を対象とした包括的所蔵調査。日本図書館情報学会誌。2012，vol.58，no.3，p.139-154。
- (15) 川崎拓人，飯倉義之。“ラノベキャラは多重作品世界の夢を見るか？”。ライトノベル研究序説。一柳廣孝，久米依子編著。青弓社，2009，p.18-32。
- (16) 『このライトノベルがすごい！』編集部。このライトノベルがすごい！2011。宝島社，2010，191p。
- (17) 『このライトノベルがすごい！』編集部。このライトノベルがすごい！2012。宝島社，2011，191p。

- (18) 『このライトノベルがすごい!』編集部. このライトノベルがすごい! 2013. 宝島社, 2012, 191p.
- (19) 国立国会図書館. 国立国会図書館サーチ (NDL Search). <http://iss.ndl.go.jp/>, (2014-02-01 accessed).
- (20) “オリコン2009年年間“本”ランキング ライトノベル (文庫)”. ORICON STYLE. 2009-12-04. [http://www.oricon.co.jp/entertainment/ranking/091204\\_01\\_17.html](http://www.oricon.co.jp/entertainment/ranking/091204_01_17.html), (2014-02-01 accessed).
- (21) “オリコン2010年年間“本”ランキング ライトノベル (文庫)”. ORICON STYLE. 2010-12-01. <http://www.oricon.co.jp/entertainment/ranking/2010/bookrank1201/index17.html>, (2014-02-01 accessed).
- (22) “オリコン2011年年間“本”ランキング ライトノベル (文庫) TOP50”. ORICON STYLE. 2011-12-01. <http://www.oricon.co.jp/entertainment/ranking/2011/bookrank1201/index09.html>, (2014-02-01 accessed).
- (23) “オリコン2012年年間“本”ランキング ライトノベル (文庫) TOP20”. ORICON STYLE. 2012-12-03. <http://www.oricon.co.jp/entertainment/ranking/2012/bookrank1203/index09.html>, (2014-02-01 accessed).
- (24) 『このライトノベルがすごい!』編集部. このライトノベルがすごい! 2009. 宝島社, 2008, 175p.
- (25) 『このライトノベルがすごい!』編集部. このライトノベルがすごい! 2010. 宝島社, 2009, 191p.
- (26) Gigazine (ギガジン). <http://gigazine.net/>, (2014-02-01 accessed).
- (27) アキバ総研. <http://akiba-souken.com/>, (2014-02-01 accessed).
- (28) おすすめアニメをレビュー感想評価/人気でランキング【あにこれβ】. <http://www.anikore.jp/>, (2014-02-01 accessed).
- (29) 時雨沢恵一. キノの旅. メディアワークス, 2000, 238p. (左記は第1巻の書誌事項。2014年2月1日現在の最新は2013年10月10日発売の第17巻)

(さとう しょう。

ながの あやか。

かわい ゆきな。

こばやし しほ。

2014年2月9日受理)